

2018年11月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 10月に「道北地域の景気は、基調としては緩やかに持ち直しており、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力は幾分緩和している」と判断を若干引き上げましたが、11月も「道北地域の景気は、基調としては緩やかに持ち直しており、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力は緩和を続けている」と判断をやや引き上げました。
- 公共投資は災害復旧工事の一巡から減少しているほか、住宅投資も減少しています。個人消費もやや弱めの動きとなっています。一方、地震後に風評被害を被った観光では、国内客を中心に持ち直しています。
- 雇用面では、労働需給が引き締まっており、金融機関の貸出も前年より増加しています。
- 地震後に懸念されたリスクは、当地では主に観光が中心でしたが、その他のリスクが顕現化しない中、景気の下押し圧力は緩和を続けています。

■個人消費の動向

- 10月の大型店売上高は、前年を下回りました。先月の防災関連用品好調の反動や、土日祝日の数が今年は前年より少なかったこと（昨年10日→本年9日）、気温が例年より高く推移して冬物衣料の売り上げに影響したことも要因のようです。
- 10月の新車登録台数は、10か月振りの前年比プラスとなりました。9月に地震の影響から登録が進まなかった分が、10月へずれ込んだことも影響しました。

■観光の動向

- 観光は、北海道胆振東部地震の風評被害からの海外客の戻りが国内客より弱い中、国内客を中心に持ち直しています。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、10月は4空港とも前年を下回り、全体でも4か月連続の前年比マイナスとなりました。このうち旭川空港では、国内線が前年割れとなりましたが、国際線は昨年運航のなかった定期便（台北便）で今年は運行があったため、前年を上回っています。
- ホテル・旅館宿泊者数は、地震の風評被害からの海外客の戻りが国内客より弱い中、10月は前年を大幅に下回りました。この間、国内のビジネス客も多い旭川市内では、ホテル客室稼働率が国内客を中心に持ち直し、前年をやや上回りました。
- 各地観光施設の入込みも、10月は前月同様、旭山動物園、層雲峡地区、利尻・礼文フェリー、網走監獄、ウトロ温泉とも前年を大きく下回り、全体でも前年を下回りました。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、10月、上川、オホーツクで前年を上回り、全体でも10か月振りに前年を上回りました。もっとも、4～10月の累計では、宗谷は前年を上回っていますが、上川、オホーツクは前年を下回り、全体でも前年割れを続けています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、9月、ウェイトの小さい分譲が前年を上回り、貸家も5か月振りに前年比増加となりましたが、持家が2か月連続の前年比減少となり、全体でも前年をやや下回りました。9月まで5か月連続の前年比減少です。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、9月、旭川市で前月同様、前年の著増の裏が出て前年比減少となり、全体でも前年を大きく下回りました。

■農業

- 10月の生乳出荷量は、地震の影響から前年を下回った前月より持ち直し、再び前年を上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、引き締まっています。9月の有効求人倍率は、北見、網走において前年同月を下回りましたが、高い水準が続いており、旭川、稚内は前年をさらに上回りました。なお、9月の新規求人数は、旭川、稚内、北見、網走の全地区で前年を下回り、全体でも8か月振りに前年を下回りました。地震の影響もあって、企業の求人活動が影響を受けたものと思われます。

■今後のポイント

- 今後とも、①北海道胆振東部地震の影響による観光産業への風評被害については、海外客の戻りに注目しつつ、ふっこう割の効果も合わせて注視していく必要があります。また、②予想される災害復旧工事の発注についても、人手不足感が高まる中、建設業者の受注動向に留意すべきです。このほか、③民間の設備投資動向や、④消費の動向、取り分け、地震やエネルギー価格の上昇、農業の不作などの消費マインドへの影響にも引き続き目を配りたいと思います。

以 上